

一般質問発言通告書

議席番号 14 番

氏名 布施 賢司

答弁を求める者

市長

教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

(○をつける)

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 地域資源の活性化について

(1) 鉄道遺産を活かした地域活性化について

依然コロナ禍ではありますが、ワクチン接種も進み、新型コロナウイルスの新規感染者数が全国的には0に近い減少傾向にあり、これからは停滞していた経済も活気づき、観光や旅行への自粛が大幅に解除される時期は近いと思っています。その先駆けとして本市では先般、観客を入れて「第3回全国未成線サミット in 浜田」が開催されました。このサミットは一年間、開催を延期したものでありますが、久しぶりに大きなイベントでした。開催にあたっては関係者をはじめ地元、佐野町・宇津井町の方達の協力やおもてなしがあつてからこそ開催できたものと思います。

- ① サミットを終えた今、実行委員会 会長として久保田市長のご所見を伺います。
- ② 参加団体の活動事例、パネルディスカッションにおけるパネラーからの産業観光への活用や集客のポイントの紹介等がありました。サミットで終わりではなく始まりとして今後どう鉄道遺産を活かしていくのか伺います。

(2) 日本遺産のブラッシュアップについて

日本遺産は現在104件で、目標の100件を超えました。文化庁は総数をおおむね維持した上で、活動が不十分な遺産の取消しと新たな候補の追加認定を進めるとしています。審査では今後の計画のほか、観光客数などの目標達成度や、ガイド育成や案内板整備といった取組を確認しているとありました。本市には北前船寄港地の「外ノ浦」や「石見神楽」の二つの日本遺産ストーリーがありますが、取組があまいと、認定継続に赤信号、それも例外ではないと思います。

- ① 昨年開催予定であった北前船寄港地フォーラム in 浜田が中止になって以来、「外ノ浦」は日本遺産に認定された構成自治体の一つで、何か盛り上がりを感じた印象です。石見神楽の日本遺産と比べその価値を市民で共有出来ているのでしょうか？ 認定期間（6年間）経過後も認定が継続されるためには、これまで以上に地域の活性化や観光振興に活かす取組をしなければいけないと思いますが、ご所見を伺います。
- ② 寄港地や船主集落といった現在と対比できる昔の写真などを入れた説明板、日和山入口の方角石への案内板の不足、石見焼きの「すり鉢やはんど」などが残る登り窯の跡地、船主の蔵や納屋、石組みの井戸跡など今、保存整備しておかないと失われていきますがご所見を伺います。
- ③ コロナ禍において夜神楽は完全予約制で実施されていますが、先日、お客様をお連れして夜神楽を久しぶりに鑑賞しました。ソーシャルディスタンスを取った上での満員（60席位）、大反響でした。アフターコロナを見据えた今後の取組を伺います。
- ④ 2025年大阪・関西万博を契機とした地域活性化を目指す首長連合が11月8日、発足しました。（発起人、加西市など14市町村）万博イベントなどを通じて地域の魅力を国内外にアピールし観光客の増加などにつなげたい考えとし、全国の自治体に参加を呼び掛けています。チャンスと捉え早くから参加することを検討したらどうか、所見を伺います。（前回開催の大阪万博1970年、昭和45年では、石見神楽のオロチ、8頭立て披露）

2 カarbonニュートラルの取組について

日本は気候変動の影響を最も受けている国の一つでもあり、自然災害の種類が多く、そういう国は世界でもないと思いますが、それにしても昔は一晩の雨で激変するような事はありませんでした。それは地球温暖化の影響であると国際社会が認める所です。その対策が、「2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」宣言を踏まえ、国・県と協調した取組が早急に求められています。

- ① 今までと違った見える形の取組が必要であると思っています。私は脱炭素社会の実現を目指す取組として、総合振興計画後期基本計画の環境部門、主要施策1「再生可能エネルギーの導入及び省エネルギーの推進」の取組に、ご提案として乗り換え時の公用車は全て電気自動車にして、動く蓄電池として災害時には避難所で活用して、使わない時は貯めるようにする取組も必要だと思っていますが、ご所見を伺います。

発言No.

13

受付No.

15

令和 3 年 11 月 19 日

10 時 41 分 受付

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 6 番

氏名 足 立 豪

答弁を求める者

(○をつける)

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

I 浜田市地域包括支援センターについて

全国平均の高齢化率は2021年において29.1%であるが、浜田市の高齢化率は令和3年10月末で37.54%である。全国平均と比較しても8.44%高く、高齢化の進行が10年先に進んでいるといわれており、浜田市におられる65歳以上の19,421人の方が、これから浜田市で過ごされる在宅生活を安心して過ごすことができるのか大変危惧している。

こうしたなか、浜田市は令和4年4月より浜田市社会福祉協議会へ「包括支援センター」を委託されることを予定されているが、それを前提に以下のとおり伺う。

(1) 現状について

- ① 地域包括支援センター(本庁設置)並びにサブセンターの相談及び依頼件数と、その推移状況について伺う。
- ② その相談及び依頼の内容について伺う。
- ③ 平日及び休日祝日の地域包括支援センター(本庁設置)とサブセンターの電話対応件数について伺う。
- ④ 包括支援センター委託先の浜田市社会福祉協議会の準備状況について伺う。
- ⑤ 包括支援センターを委託することの市民理解度や浸透状況について伺う。

(2) 現在の取組状況について

- ① 委託することに対するメリット・デメリットを伺う。
- ② 包括支援センターは、単体運営だけでなく浜田市の様々な担当課との連携も求められるが、委託になることへの連携について伺う。
- ③ 事務効率化、経費削減の取組について伺う。
- ④ 開設時間、開設期間について伺う。

(3) 今後について

- ① 委託することで、今包括支援センターに携わっている職員の今後の業務について伺う。
- ② 委託することで、現状よりも対象者に対するサービス向上が見込まれる内容について伺う。
- ③ 委託先の拡充について伺う。

発言No.

14

受付No. 20

令和3年 11月 19日

10時50分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 20 番

氏名 西田清久

答弁を求める者 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
(○をつける) 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 若者の定住促進と人口減少対策について

市長の所信表明を伺い、新たに若者が増える施策について別の視点で質問する。

(1) 小規模農業の推進について

- ① 地球環境問題やSDGs（持続可能な開発目標）が浸透してきたこともあり、都市部から地方へ農業移住を考える若者は少なくない。国の政策として農業の大規模化が進められる中、環境に優しい有機農業など小規模農家に対する支援策もUIターン施策として必要と考えるが、市長の所見を問う。

(2) 住宅改修事業について

- ① ふるさと島根定住財団や自治体事業で過去にも実施されていたが、UIターンのための空き家の改修費事業について、予算措置（最低でも200万円以上）をしっかりと講じることで、居住空間が若者に合わせてリノベーションでき、地域経済を含め総合的にも効果が大きいと考えるが、市長の所見を問う。

(3) 若い世代の意見を施策に反映させることについて

- ① 若い世代の意見を施策に反映させるために”若者会議“の開催は共感するが、若者が暮らしやすい、住んで良かったと思えるまちづくりのために、浜田の広報紙を活用した全戸への「まちづくりアンケート」を実施してはどうか所見を問う。

(4) 地域おこし協力隊と県立農林大学校との連携について

- ① 農業や林業を目指す若者を地域おこし協力隊で募集し、地域になじんだ2年目から県立農林大学校で一定のスキルを身に付けるという仕組みが、その後、より地域に定着し、定住促進につながるものと考えているが、所見を問う。

発言No.

15

受付No.

17

令和 3 年 11 月 19 日
10 時 45 分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 9 番

氏名 柳楽 真智子

答弁を求める者

(○をつける)

市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長

農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1. 人に優しい教育について

(1) デイジー教科書について

① 現在、小中学校では1人1台のタブレット端末を配備されています。本年3月定例会議の公明クラブの会派代表質問において、デジタル教科書の活用について質問し、国が令和3年度に実証事業として、小学校5・6年生と中学生について各校1教科分が無償で試せることから、浜田市でも積極的に活用し有用性を確認するとの答弁をいただきました。発達障がい児等の学習を音声や色で補助する「マルチメディアデイジー教科書」を、特別支援学級で活用している自治体もあります。実証事業の状況と浜田市での活用について伺います。

(2) ジェンダー教育について

① ジェンダーギャップ指数2020で、日本は149カ国中120位となっており、他の先進国と比べてジェンダー平等の実現が進んでいない状況です。文部科学省が公表している「性同一性障害に係る児童生徒に対する学校における支援の事例」では、自認する性別の制服・衣服や体操着の着用を認めるなど、生物学的な性別ではなく、自分が認める性別で生活できる取組が挙げられています。このことを進めるには私たち大人の意識改革も大変重要だと考えていますが、子どもたちにも早い段階から多様性を認める心を育てたいと思います。浜田市のジェンダー教育の現状と今後の取組について伺います。

2. がん検診について

(1) 受診率向上の取組について

① 厚生労働省は、子宮頸がんなどの主な原因となるヒトパピローマウイルス（HPV）感

感染症を予防するワクチン接種後に、体の痛みなどを訴える声が相次ぎ、2013年6月に積極的勧奨を中止していました。接種勧奨中止の間も公費による定期接種は維持されていましたが、接種を促す個別通知などができないため接種率は低迷しています。厚生労働省は8年ぶりに接種勧奨を再開する方針を示したとのことですが、勧奨中止期間の接種状況と、子宮頸がんの発症への影響について伺います。

3. 環境問題について

(1) 情報発信について

- ① ごみカレンダーをスマートフォン等で確認できるように検討していると伺っていましたが、進捗状況を伺います。
- ② 浜田市環境基本計画の48ページに情報の提供の項目があります。様々な情報をホームページなどから容易に検索できるような仕組みが必要と記載されていますが、わざわざホームページに入って検索される方は少ないように感じます。地球温暖化対策は市民の皆様のご協力がなければ進まないことから、市民の皆様に取り組んでいただきたいことを、具体的に示す必要があると考えます。アプリを活用して積極的に発信する方が効果的だと思いますが、検討されているのか伺います。

4. 危機管理について

(1) 遊具について

- ① 老朽化により使用ができなくなっている遊具には、危険なので使用しないようにとの注意看板等が設置されていますが、修繕されるでもなく、撤去もされず残されているものがあります。危険であると判断され修繕しないのであれば、撤去するなど早めに対応する必要があるのではないかと考えます。現在、使用中止のまま放置されている遊具の数と今後の対応について伺います。

(2) 豪雨災害について

- ① 市道沿いなどで、大雨の際に家屋等への浸水が度々発生するような場所については、しっかりと対策を行っていただきたいと思えます。すでに対応して頂けると聞いている場所もありますが、今後の対応方針を伺います。

5. 女性活躍推進について

(1) 地域女性活躍推進交付金について

- ① 国はコロナの影響で様々な問題を抱えている女性に対する支援策として、令和2年度から地域女性活躍推進交付金の事業を行っており、令和3年度も予算が計上されています。活躍推進型・寄り添い支援型・つながりサポート型の3つに区分されていますが、

つながりサポート型については5月28日に受付終了となっていました。その後追加募集が行われ、この締め切りも11月26日となっております。浜田市でも検討されたのか伺います。

一 般 質 問 発 言 通 告 書

議席番号 21 番 氏名 川神 裕司

答弁を求める者 市長 教育長 監査委員 選挙管理委員会委員長
(○をつける) 農業委員会会長 固定資産評価審査委員会委員長 公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 石見神楽振興戦略について

(1) 石見神楽の文化度の高さや重要性に対する認識について

- ① 石見神楽の重要性についてあらためて市長の認識を問う。
- ② 9月定例会議において石見神楽の浜田市文化財指定が困難との答弁があり、その替り新設された国の無形文化財登録制度に登録できるか検討するとのことであったが、現在の対応を問う。

(2) 石見神楽伝承拠点施設の設置について

- ① 以前石見神楽連絡協議会に御便殿の常設神楽館化が市長から提案されたが、不調に終わった。逆に神楽協議会から収容人員200～300人の施設を要望。
市長の石見神楽伝承拠点施設の設置に対する考え方を問う。

(3) 石見神楽を支える神楽産業の振興について

- ① 石見神楽発展の陰には、浜田市発祥の石州半紙、蛇胴、神楽面、衣装等独自のモノづくりがある。この技術こそ浜田の宝として後世へ責任を持って繋げていかなくてはならないと考えるが後継者支援も含め市長の所見を問う。

(4) コロナ禍による神楽社中への運営支援について

- ① 現在市内の多くの神楽団体はコロナウイルス感染の不安により、奉納神楽も含め出演回数が激減している。既に社中運営に大きな影を落としている所も少なくなく神楽産業部門も含め支援策を講じる必要があると考えるが所見を聞く。

2 市民の命を守る施策の充実について

(1) 新型コロナウイルス感染拡大防止対策強化について

- ① ワクチンの3回目の追加接種の方針が国から示されたが、前倒しで6カ月後接種に関しては自治体の判断に委ねられている。当市の接種に関する方向性と、具体的接種方法・周知の考え方を問う。

(2) がん撲滅推進施策の充実について

- ① 予防としての「がん検診」は極めて重要であるが無料施策にもかかわらず検診受診者が依然少ない。がん検診受診率最近の動向と分析に関して問う。
- ② 数年前医療センターにおいて放射線治療医が1名しか在籍しておらず、西部唯一の「地域がん診療連携拠点病院」指定取り消しが危惧された。現在の状況と当市として拠点病院機能存続のための支援策はあるか問う。
- ③ 「がん教育」に関して平成24年6月に制定された「がん対策推進基本計画」において文部科学省が学校におけるがん教育の在り方を取りまとめたが、現在がん教育の実態と成果について問う。
- ④ がん治療の場合、市外、県外への通院を余儀なくされる場合も多く、交通費、宿泊費が大きな負担。コロナ禍の中、収入激減の方から悲鳴が聞こえてくるが、がん患者を支える家族やがんサロンのような団体に対しての支援策はどうか。

(3) 医師・看護師養成確保対策について

- ① 現在地域医療の根幹をなす開業医の後継者も厳しい状況と聞いている。現在の開業医の後継者の状況及び医師・医療スタッフの確保対策について問う。

(4) ICTを活用した遠隔診療システムへの挑戦について

- ① 中山間地域の救急救命体制整備を確立するため、高度情報化計画の柱としての遠隔地診療システムの構築は極めて有効な戦略。間もなく整備が進むケーブルテレビの市内全域光ファイバー化を活用するか、5G活用による遠隔診療を導入するか検討を行う必要があると思うが所見を聞く。